

NEWS LETTER

2021. **10**
vol.48 No.1

What's New

「新型コロナウイルス危機対策」

「新任役員・副学長の紹介」

今こそ、未来に向かって
「チーム浜松医大」



新型コロナウイルス

危機対策

～今こそ、未来に向かって「チーム浜松医大」～

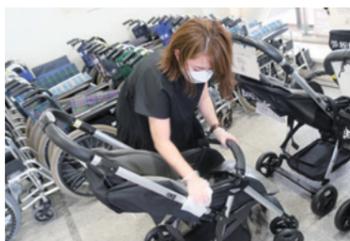
新型コロナウイルスは昨年より猛威を奮い、第5波による国内の新規感染者数は約2万人を、静岡県の新規感染者数も600人を超えました。この新規感染者数の急拡大を受け、本県も8月20日より緊急事態宣言の対象地域となりました。

本学では、新型コロナウイルス感染症に対応するため、学長を中心に「新型コロナウイルス危機対策本部」を早期に設置、案件ごとにミーティングを開催し、クラスターが発生した病院への行動制限や緊急事態宣言下での行動規範などを学内一斉メール及び学内ホームページで教職員に随時周知するなど感染対策と教職員の意識向上を徹底しました。この取り組みにより、学内においてクラスターが発生することなく継続的に業務運営を行ってきました。

感染予防策としては様々なものがありますが、最も有効な策としてワクチン接種が挙げられます。本学の学生・教職員に対するワクチン接種は2段階に分けて行いました。

まず、医療提供体制の確保等のため、臨床実習に携わる学生も加えた医療従事者等附属病院関係者約2,400名への接種を行いました。

附属病院での感染対策はもちろん、学内の各場所にアルコールを設置し、手指消毒を徹底しています



首都圏に緊急事態宣言が発令されたことに伴い、感染対策として本ホールの運用を変更します。

- 1) 個々の机には1名のみ着席願います。(長机は2名まで)
- 2) 机は移動しないでください。

食事中の会話は**禁止**します。

感染予防のため、図書館内では必ずマスクの着用をお願いいたします。

デジタルサイネージを利用し、感染対策を呼び掛けている



職域接種の様子



次に、これから臨床実習を控えた学生、未接種の教職員についても病院と密接にかかわっていることから、本学も職域接種を希望し、7月12日から7月19日に1回目の接種を、8月18日から8月25日に2回目の接種を本学附属図書館のグループ学習スペースを利用して行いました。学生には、ワクチン接種をより理解してもらうために山本理事(教育・産学連携担当)から接種に関する説明を行い、学生及び教職員約1,100名が接種を希望し、実施しました。

さらに、地域支援として静岡県立農林環境専門職大学の学生・教職員205名についても実施しました。同大学は、学生の半分以上が寮生活を送っていることから、感染者が発生した場合にクラスターとなる可能性がありましたが、学生・教職員を合わせても職域接種に申請できる1,000人には足りませんでした。そのため同大学からは、早期のワクチン接種を実施することができ、感染予防につながったという声をいただいています。

加えて、割り当てられたワクチンで、希望する教職員の家族の接種が可能となり、希望者多数のため残念ながら抽選となりましたが、百数十名の方に接種を行いました。

本学は、県内の大学では最初に職域接種を行うことができ、東海地区でも名古屋大学と同一の週から行うことができました。現時点において、重篤な副反応の報告は認められていません。

また、本学では浜松市や静岡県からの要請を受け、ワクチン接種に人的支援

を行っています。浜松市には100名超の医師を派遣、静岡県については掛川市と吉田町の大規模接種会場に30名超の看護学科の教職員を派遣しています。

最近では、ワクチンを2回接種していたとしても、国内でデルタ株等の感染例は見受けられています。ワクチンは新型コロナウイルス感染症予防や重症化防止の「強力な武器」であることは確かですが、感染予防効果には限度があり、本学では、引き続き学生・教職員の感染対策と意識向上を徹底していきます。



ワクチン接種に看護学科教職員を派遣するにあたり、安全に実施できるようにシミュレーターを用いて手技の確認を行いました

トピックス 1-3

- トピックス1 新型コロナウイルス危機対策 ～今こそ、未来に向かって「チーム浜松医大」～
- トピックス2 新任役員・副学長の紹介

研究最前線 4

- リソソームの膜タンパク質ATP6V0A1の異常が発達性およびてんかん性脳症の原因となることを発見 ～モデルマウスを用いて発症機序の一端を明らかに～

新任職員の紹介 5-9

NEWS 9

主催学会・シンポジウム 10

- 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
- 第25回一般社団法人日本看護研究学会東海地方学術集会を開催して
- 第9回日本腎栄養代謝研究会学術集会

講座・研究室紹介 11

学会賞等受賞 12

次世代×研究者 13-14

- どのように実験動物で精神疾患を「診断」できるか? 13
- 生体組織や細胞を構造や硬さの側面から定量的に評価する 14

海のむこうで 15-16

- 英国での研究教育生活

大学ニュース 17-24

- 各種行事 17-18
- サークル活動の記録 19
- サークル紹介 20
- 国家試験合格状況 21
- 第115回医師国家試験大学別合格状況 21
- 令和3年度入学者選抜試験実施状況 22
- 令和2年度卒業生・修了生の進路状況 23
- 留学生の紹介 24

卒業生は今 25-26

- 人事交流にて厚生労働省に勤務して 25
- 健康で笑顔あふれる社会のために 26

表紙の写真

本学附属図書館のグループ学習スペースを利用して行った新型コロナウイルスワクチンの職域接種の様子

令和3年7月撮影



New Executive Directors Vice Presidents

新任役員・副学長の紹介

Introduction



理事(財務担当)・事務局長
佐藤 誠

本年4月から理事(財務担当)・事務局長に就任しました佐藤です。
昨年初めて日本でも発症が確認された新型コロナウイルス感染症は、現在においても、収束の見通しが立たない状況が続いています。大学における諸活動においても、様々な制約を余儀なくされており、学生や教職員の皆様にも、これまでに経験のないご不便をおかけしているところかと思えます。皮肉なことではありますが、人間が世界中を頻繁に往来するグローバルな時代だからこそ、新型コロナウイルス感染症は瞬間に世界中に広がり、また、科学技術の進展が目覚ましい現代社会にあっても、ワクチンや治療薬の開発には相応の時間を要するなど、改めて感染症の恐さを痛感することとなりました。

このような中で、医療分野の人材育成、研究、診療を担う大学・大学病院の役割が、益々、期待される所であり、加えて、地元、浜松市においては、健康寿命社会を目指す中で、本学がその強みを生かして地域とともに発展するために、微力ながら尽力したいと思います。とりわけ、財務担当としては、国の財政状況が厳しい中で、安定的な財務運営や、静岡大学との統合・再編といった大きな課題はありますが、楽しく、前向きに取り組んで参りますので、皆様のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いたします。



理事(地域・大学連携担当)(非常勤)
鈴木 滋彦

本年4月より理事(地域・大学連携担当)(非常勤)を拝命いたしました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。昨年4月、磐田市に開学した静岡県立農林環境専門職大学で学長を務めております。専門職大学は2019年度から始まった新しいタイプの大学で、農林業系の専門家の育成が使命です。静岡県立大学、静岡文化芸術大学に続く第三の県立大学としてスタートしました。コロナ禍のもとでの船出となり、実習やインターンシップなど、新しい職業教育のあり方を模索しているところです。

前職は農学部の教員として静岡大学に勤務していました。森林科学、木質科学の分野が研究の出発点ですが、農学教育のあり方や学部運営に関わるようになってからは、研究者としてはパツとしないことを自覚しています。また、国際戦略担当の副学長を6年間勤めておりました。そこでは、東南アジアからの留学生の招聘や、中東欧の大学との連携に力を入れました。

ということで、医学との接点はとばしく、医科大学の理事(非常勤)が務まるかどうか不安に思っています。非力ではありますが、地域との連携、国立・公立・私立を含んだ大学間の連携等において、貢献できるような努める所存です。宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。



副学長(産学連携・知財担当)
中村 和正

本年4月より、副学長(産学連携・知財担当)、産学連携・知財活用推進センター長を拝命いたしました中村です。よろしくお願い申し上げます。私は、昭和63(1988)年に九州大学医学部を卒業し、九州での勤務が長かったのですが、ご縁あって平成27(2015)年5月に浜松医科大学医学部放射線腫瘍学講座に赴任いたしました。ご存じのように、浜松は多くの起業家を輩出した土地であり、本学は産学連携が大変活発で、その地の大学の産学連携・知財活用推進センターを担当することに、大変身の引き締まる思いです。私自身はもともと知財には興味があり、自分で特許の明細書の書き方を勉強したり、放射線治療の精度を高めるためのデバイスを作ったりしていましたので、少ないながらもその経験を活かすことができると考えております。医学部での知財活用と言えば、一般的には生物学、生化学系の内容が多いように思っていたのですが、本学では、それらの分野に加えて工学、情報学系の医学への応用も多く、大きな魅力のひとつと考えております。微力ながらも本学の産学連携に貢献できますよう努力いたしたいと思います。ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



医化学講座 助教

青戸 一司

リソソームの膜タンパク質ATP6V0A1の異常が発達性およびてんかん性脳症の原因となることを発見

～モデルマウスを用いて発症機序の一端を明らかに～

<研究の概要>

本学医化学講座(青戸一司助教・才津浩智教授ら)は、本学神経生理学講座(秋田天平准教授・福田敦夫教授)らとの共同研究により、発達性およびてんかん性脳症の原因となるATP6V0A1遺伝子を発見しました。この遺伝子が産生するタンパク質は、リソソーム(タンパク質の分解に関わる細胞内小器官)の酸性度を調節するプロトン(H⁺)ポンプであるV-ATPaseの構成サブユニットの1つです。本研究では、患者と同様の変異を持ったAtp6v0a1仔マウスの解析により、神経細胞死、リソソーム異常に起因したオートファジー異常、細胞増殖異常等が観察されており、このマウスモデルを用いた研究により、効果的な治療法の開発への寄与が期待されます。この研究成果は、英科学誌ネイチャー系医学誌「Nature Communications」に掲載されました。

<研究の背景>

てんかんは最も頻度が高い神経疾患の一つで、日本国内に人口の1%近くの約100万人の患者がいると推定されています。てんかんは外傷、感染症、脳出血、脳腫瘍など様々な原因が知られていますが、最も頻度の高い原因は遺伝子の異常によるものであるといわれています。特に早期発症型てんかんにおいては遺伝的要因の関与が強く示唆されていますが、その遺伝的背景は非常に多彩

であり、近年の次世代シーケンス技術の発展によってその責任遺伝子が次第に明らかになりつつあります。

また、2020年ノーベル化学賞を受賞した遺伝子を書き換えることのできるゲノム編集技術の登場により、患者と同じ遺伝子変異を持ったてんかんマウスモデルの作製が容易になり、発症機序の解明を促進しています。

<研究の成果>

研究グループは、次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析によって、脳神経の細胞死、知的障害、発達遅滞、てんかんを示す発達性およびてんかん性脳症の4家系の患者で、ATP6V0A1の変異を同定しました(図1)。2例はATP6V0A1の同一の突然変異(p.R741Q, 741番目アミノ酸のアルギニンがグルタミンに置換)で、2例は両アレルに変異を認めました。

ATP6V0A1変異遺伝子を発現させた培養細胞では、プロトンポンプ機能の異常によるリソソームの酸性度の異常が観察されました。さらに、R741Q変異導入マウスは胎生致死であるのに対して、両アレル性の異常を認めた患者で同定されたA512P変異導入マウスは、生後すぐに体重減少、小脳性運動失調がみられ、2週間以内に致死となりました。この新生児マウスの大脳皮質、海馬、小脳では、神経細胞の減少、層構造異常が観察されました。組織学的、生化学

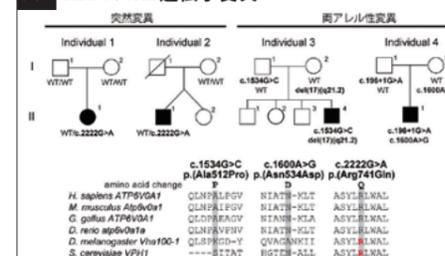
的解析では、Atp6v0a1タンパク質の発現減少、海馬の神経シナプス結合の減少(図2左)、神経細胞の細胞死の増加、活性を持ったリソソーム酵素の減少、V-ATPaseと関連して細胞増殖に働くmTORシグナルの減少が見られました。また、細胞内のタンパク質を分解するのに重要なオートファジーの過程では、リソソームは、細胞内の老廃物や不要物を取り込んだオートファゴソームと癒合して分解します。電子顕微鏡による微細構造観察では、生後10日齢の新生児マウスの海馬神経細胞では、癒合不全によるオートファゴソームとリソソームの蓄積が観察されました(図2右)。

以上の結果から、ATP6V0A1変異を持った患者の脳神経細胞では、V-ATPaseの機能異常により、リソソーム内のプロトン濃度が減少し、リソソームの生理的機能が異常をきたし、mTORシグナルの減少による細胞増殖低下、オートファゴソームとの癒合不全によるオートファジーの異常の蓄積、活性を持ったリソソーム酵素の減少が起こったと考えられました(図3)。

<今後の展開>

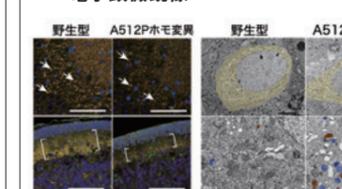
本研究成果は、小児難治性てんかんの病態解明に貢献し、ゲノム編集で作製した疾患モデルマウスは効果的な治療法の開発に寄与することが期待されます。

図1 ATP6V0A1遺伝子変異



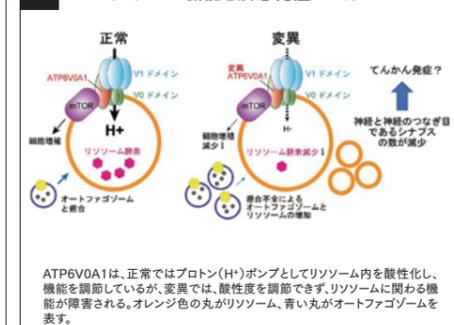
(上段)ATP6V0A1遺伝子変異が見つかった4名の患者の家系図と変異の分離について示す。左2名に同一の突然変異が、右2名に両アレル性の変異が見つかった。(下段)患者で同定されたミスセンス変異が置換を起こすアミノ酸の保存性を示す。Arg741はヒトから酵母まで進化的に保存されている。

図2 海馬のシナプス形成と電子顕微鏡像



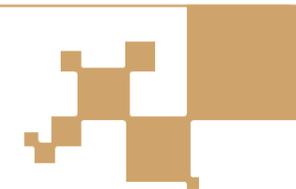
(左図)A512Pホモ変異マウスの海馬(上、矢印)と小脳(下、括弧)では神経と神経のつなぎ目であるシナプスの数が減少している。(右図)A512Pホモ変異マウスではオートファジーの異常が見られる。青色がオートファゴソーム、茶色がリソソームを示す。

図3 ATP6V0A1の機能と疾患発症のメカニズム



ATP6V0A1は、正常ではプロトン(H⁺)ポンプとしてリソソーム内を酸性化し、機能を調節しているが、変異では、酸性度を調節できず、リソソームに関わる機能が障害される。オレンジ色の丸がリソソーム、青い丸がオートファゴソームを示す。

NewStaff Introduction



総合人間科学講座(心理学) 教授
田中 悟志

【専門分野】心理学、行動科学

平成26(2014)年より7年間、総合人間科学講座(心理学)の准教授として本学の研究・教育に従事してまいりました。そして、このたび令和3(2021)年1月1日付で教授を拝命いたしました。

私は神奈川県西部、南足柄市で生まれ育ちました。小さい頃は政治家になりたいと思っていましたが、リクルート事件など政治家の度重なる汚職に失望し、だんだんと興味を失ってしまいました。進路に迷う中、当時流行していた心理学や脳科学の書籍に感化され、この分野の研究者を志すようになりました。その頃から30年近く

経ちましたが、幸いなことに当時抱いた学問への思いは変わらず現在に至ります。

現在、力をいれている研究テーマは、ヒトの学習、記憶やモチベーションのメカニズムの理解とその臨床応用です。しかし、心理学はヒトの心理や行動に関することなら何でも対象とする学問です。私自身も研究の興味は幅広いです。もし、心理や行動に関することで研究のご興味があれば、何でもご相談いただければと思います。これからも本学の研究・教育に少しでも役立っていけるように努力していきたいと考えております。ご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



医生理学講座 教授
鈴木 優子

令和3(2021)年4月1日付で医生理学講座の教授を拝命いたしました。

本学を平成5(1993)年卒業後、第二内科(当時教授:吉見輝也先生)に所属し本学医学部附属病院内科ローテーション研修を1年、さらに榛原総合病院にて2年余り、内分泌代謝疾患を中心に内科全般の臨床に携わりました。卒後10年は常勤臨床医として研鑽を積むことを思い描いていましたが、早々に女性特有のライフイベントを迎えました。昨今はメジャー科でも仕事と家庭の両立を可能にする環境が整いつつあります(まだまだ不十分とは感じています)が、私は臨床第一線を離れる選択をしました。第二内科と生理

学第二講座(現 医生理学講座)との共同研究へ参画し、研究生として本講座初代教授の高田明和先生のもとで基礎研究を開始しました。さらに浦野哲盟先生へ継がれた際には本講座スタッフとして、リアルタイムイメージングによる研究に取り組ませていただきました。このような機会を与えていただいた先生方に心より感謝いたします。時々刻々と変化する生理現象を「見る」ことの面白さに加え、そこから捉えられる真実を通して、独自の視点から新たな生理学的調節機構の提唱に取り組む所存でございます。皆様、どうぞご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



内科学第一講座 教授
杉本 健

令和3(2021)年4月1日付で内科学第一講座教授を拝命いたしました。私は湖西市(旧新居町)出身で本学の第14期生(平成5(1993)年卒)です。入局後大学、市中病院で研修を行った後、平成11(1999)年に大学院にもどり、平成15(2003)年から5年間の米国マサチューセッツ総合病院での留学を経て、平成20(2008)年から本学で消化器内科学、主に炎症性腸疾患の研究と診療に取り組んできました。平成23(2011)年から第一内科講師、平成25(2013)年から第一内科准教授として前任の宮嶋裕明前教授のもとで医局の運営、発展のために腐心して

きました。これまで第一内科は消化器内科・腎臓内科・脳神経内科で構成されていましたが、令和3年5月から脳神経内科が第一内科の枠組みから外れて今回新設される神経・難病センターに組み込まれることになりました。私自身は中村友彦特任教授が率いる新たな脳神経内科グループと第一内科全体の調和を図り、それぞれが協力し合い、また、個別にも発展できるような舵取りを行い、さらなる第一内科の発展に尽力していきたいと思っています。皆様からの温かなご支援とご協力をお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授
三澤 清

令和3(2021)年4月1日付で耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授を拝命いたしました。私は神奈川県平塚市で育ち、平成7(1995)年に浜松医科大学を卒業(16期生)し、本学耳鼻咽喉科講座に入局しました。本講座は、これまで野末道彦先生、星野知之先生、峯田周幸先生(1期生)によって主宰され、私は歴代教授の先生方にご指導いただき、臨床、研究を行ってまいりました。臨床面では、頭頸部癌診療と最近では睡眠医療に取り組んできました。研究面では、ミシガン大学留学時に頭頸部癌のエピゲノム研究に取り組み、帰国後も行ってきました。これ

までの経験を活かしながら、浜松から新規知見を発信し、本講座ならびに浜松医科大学の発展に寄与したいと思います。

本講座の特徴の一つに、これまで歴代教授、同門会員、医局員が育んできた自由で闊達な雰囲気があります。これからは若手医師が新しい挑戦ができる環境を整えていきたいと思っています。臨床では、幅広く地域、他科と連携し、研究では横断的研究に積極的に参加していきたいと思っています。皆様におかれましては、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座にこれまでと同様多くのご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



小児科学講座 教授
宮入 烈

【専門分野】小児科学、感染症学

令和3(2021)年6月1日付で小児科学講座の教授を拝命いたしました。私は平成7(1995)年に慶應義塾大学医学部を卒業し、国内各地の市中病院を中心に一般小児科医としての経験を積み、平成12(2000)年からは11年間にわたり米国で、平成23(2011)年以降は国立成育医療研究センターで小児科・小児感染症の診療、感染管理、研究に従事しておりました。

本学小児科学講座は前任の緒方先生のもとで教育・臨床・研究において大きく発展し、結果として、血液腫瘍、内分泌・遺伝、神経、循環器、免疫・アレルギー、腎臓、周産期・新生児の各

領域の専門医を揃え、医局員も10年で倍増するに至りました。今後も当該地域の先進医療を中核的に担い、独創的な研究と、優れた医療者の育成を担うという本学のミッションを体現していきたいと思っています。小児医療には人類の未来を支える重大な役目があります。しかし、国内においては少子化という難題に直面しており、従来の疾病診療にとらわれず個別医療や、社会心理学的な側面への支援が求められるところです。この概念の実現にむけて、小児医療の発展に尽くしたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



歯科口腔外科学講座 教授
増本 一真

令和3(2021)年4月1日付で歯科口腔外科学講座教授を拝命いたしました。

平成6(1994)年に新潟大学歯学部を卒業し、豪雪の地より心機一転、気候温暖な浜松に参りました。本学大学院で光線力学的療法の研究で学位を取得後、自治医科大学集中治療部、浜松医療センター、防衛医科大学校で研鑽を積み、平成19(2007)年に本学に復職し現在に至っております。本学では歯科口腔外科全般、主に口腔がん、顎変形症を専門として治療に当たっておりますが、今後は歯科ならではの治療であるインプラントや顎骨増生、医科歯科連携

の推進にも注力する所存です。

第2の故郷とも言うべき浜松で今後も引き続き仕事をさせて頂けることに大変感謝しております。まだまだ至らぬ点が多々ございますが、浜松医科大学と地域医療の更なる発展のため全身全霊で当たらせて頂く所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しく願い申し上げます。

追伸:余暇はサイクリングやルアーフィッシングに没頭しておりますので同好の方はお声掛け頂けると幸甚です。

NewStaff Introduction



地域医療支援学講座
(寄附講座) 特任教授
竹内 浩視

令和3(2021)年5月1日付で地域医療支援学講座の特任教授を拝命いたしました。

私は浜松市(旧浜北市)出身で、本学第8期生として卒業後、小児科学講座に入局し大学院を含む14年間、県内病院で診療に従事しました。平成13(2001)年からは行政医師として、厚生労働省本省で2年間、静岡県(県庁・保健所等)で15年間勤務後、平成30(2018)年から当講座特任准教授として、研究・教育に従事してきました。

当講座は静岡県の寄附講座で、「医師の地域偏在解消、地域医療構想の実現に向けて、医師不足地域における研修体制の充実を図る」こと

が目的ですが、全国的には約10年後に医師需給が均衡するとされる中、本県は医師の絶対数の不足が続く大変厳しい状況にあります。

私としては、「地域の医療需要の明確化(地域医療構想の具体化)」と、それに基づく医療提供体制の充実・強化、再構築等を通じた医師の研修体制の充実が、「現実的で実効性が高い医師偏在の解消」につながるものと考えております。

今後は、行政・医療関係者等との関係をさらに深め、若手医師の県内定着につながる環境整備を支援していく所存ですので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

【専門分野】小児科学・小児神経学・先天代謝異常症学・臨床遺伝学



浜松成育医療学講座
(寄附講座) 特任教授
福田 冬季子

令和3(2021)年5月1日付で浜松成育医療学講座の特任教授を拝命いたしました。私は、焼津市の出身で、富山医科薬科大学(現、富山大学)卒業後、本学小児科に入局。市中病院、東京女子医科大学、浜松市発達医療総合センター、NIH(Bethesda, USA)、自治医科大学、本学小児科で、臨床と研究を行ってきました。小児科学のうち、小児神経学、特に代謝性ミオパチーやライソゾーム病の分野を核に、先天代謝異常症学と臨床遺伝学も専門にしています。

この度、浜松市の寄附講座として開講した

本講座に着任いたしました。「成育医療学」とは、小児科学を礎に、小児医療を「発生から成人期に至る過程の医療」としてとらえ、様々な病態を持つ小児の成育過程に必要な医療を、幅広く研究する学問です。本講座では、医学部附属病院小児科での診療、小児希少難病の診断・治療を行い、小児難病の移行期医療、在宅医療などの課題に取り組み、seamlessな成育医療をめざして参ります。小児科専門医、小児神経専門医の育成にも尽力したいと思います。成人科との連携もより一層重要になると思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



脳神経内科 特任教授
中村 友彦

令和3(2021)年5月1日付で医学部附属病院脳神経内科特任教授ならびに神経・難病センター長を拝命いたしました。

私は平成7(1995)年に名古屋大学を卒業後、初期研修を社会保険中京病院で行い、そこで神経診察による探求心とその背景にある神経内科学の学問的歴史を当時の主任部長であった陸重雄先生より学び、脳神経内科を志すこととしました。平成15(2003)年に名古屋大学大学院に入学後はパーキンソン病などの神経変性疾患における心臓交感神経を中心とした自律神経機能に関する研究を行ってまいりました。

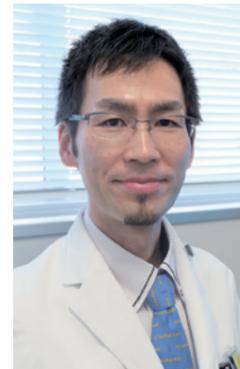
皆様もご存じの通り当院の脳神経内科はやや小さな組織ではありますが、診療を大切にしながら教育にも重点を置いて、一人でも多く脳神経内科に興味を持ってくれる学生を育てていきたいと考えています。また今回、神経・難病センター長も拝命し、来年度中に本格的運用が開始されます。それに伴い多くの難病患者さんが満足できるような診療、研究体制を構築して、脳神経内科の発展、さらには当院のさらなる発展に力を尽くしていく所存です。末永くご支援のほど、よろしくお願ひいたします。



脳神経外科学講座 准教授
鮫島 哲朗

令和3(2021)年6月1日付で脳神経外科学講座准教授を拝命いたしました。平成25(2013)年4月に本学に赴任しております。私の専門領域として、脳神経外科疾患における治療において手術が重要な位置を占める良性腫瘍(特に髄膜腫や聴神経鞘腫など)や悪性腫瘍を含む頭蓋底腫瘍、小児の脳腫瘍、さらに直達手術が難しい動脈瘤や顔面痙攣、三叉神経痛といった機能的な外科手術も行っております。地方の医科大学ではありますが、守備範囲の広さとクオリティの高さをモットーにしており、地域の患者さんのために大都市圏の病院に行かなくても負けない症例

数と、より良好な治療成績をあげています。教職員一同、さらなるレベルアップを目指しているところです。また、若手の先生方や医学生に当院でのバラエティに富む症例を経験していただくことにより、次世代における本物の外科医育成に尽力していきたいと考えております。引き続き、皆様方のご支援、ご協力の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。



放射線診断学講座 准教授
市川 新太郎

【専門分野】画像診断学(特に肝胆膵領域)

令和3(2021)年4月1日付で放射線診断学講座の准教授を拝命いたしました。私は浜松市で生まれ袋井市で育ちました。平成17(2005)年に山梨大学医学部を卒業後、2年間の卒後臨床研修を経て平成19(2007)年に山梨大学放射線医学講座に入局しました。平成21(2009)年から3年間、静岡県立総合病院での勤務歴があり、平成30(2018)年から2年間カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)での留学を経験いたしました。日常臨床では肝胆膵領域を中心に全身の画像診断レポートを作成しており、いわゆる

general radiologistとして診療に励んでおります。研究に関してはこれまで肝臓のMRIを主なテーマとしてきました。できるだけ臨床に役立つ内容の研究を行うことを心がけております。

本学は静岡県唯一の医学部であり、地域に貢献できる放射線科医の育成が当講座の使命です。また、浜松は昔からものづくりが盛んな土地ですので、その伝統に倣って様々なアイデアを世界に発信していけるような放射線科医の養成に努力していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



産婦人科学講座 准教授
安部 正和

【専門分野】婦人科悪性腫瘍、支持療法

令和3(2021)年4月1日付で産婦人科学講座准教授を拝命いたしました。平成10(1998)年に浜松医科大学を第19期生として卒業しました。医師となり24年目になりますが、前半12年間は静岡県内の総合病院で、その後11年間は静岡がんセンターで婦人科悪性腫瘍の診療に従事してまいりました。これまで約1000人の悪性腫瘍患者を担当しましたが、本学における婦人科悪性腫瘍診療の充実に貢献できるようこれまでの経験を活かしたいと思います。

研究では静岡がんセンター時代に、シスプラ

チンを含む高度催吐性化学療法の新しい制吐療法の開発を目的に、オランザピンを使用したプラセボ対照二重盲検ランダム化第3相試験(J-FORCE STUDY)を研究代表者として全国30施設の協力を得て行いました。オランザピンを含む新しい制吐レジメンは現在最も効果の高い制吐療法として米国のガイドラインに記載されました。大学病院においても抗がん治療だけではなく、支持療法の充実に取り組みたいと存じます。

研修医以来の大学病院勤務になりますが、母校に貢献できるよう診療・教育ともに尽力してまいります。ご支援ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

NewStaff Introduction



基礎看護学講座
(基礎看護学) 准教授
村松 妙子

【専門分野】基礎看護学

令和3(2021)年6月1日付で基礎看護学講座(基礎看護学)准教授を拝命いたしました。私は浜松市出身で、平成12(2000)年に本学看護学科を卒業後、京都大学附属病院、本学医学部附属病院にて看護師として臨床経験を積んでまいりました。その後、本学大学院修士課程、博士課程を修了し学位を取得いたしました。平成20(2008)年9月から基礎看護学講座の教務補佐、平成25(2013)年に同講座助教として教育に携わっており、基礎看護技術、看護倫理、基礎看護学実習を主に担当しています。

私の主な研究テーマは「看護倫理」「看護教育」で、アクティブラーニングを活用した看護倫理教育プログラムの構築に関する研究、情報通信技術(ICT)を活用した看護技術教育に関する研究に取り組んでいます。多様化する価値観、高度化・複雑化する医療現場において専門職として質の高い看護を提供するためには、高い倫理性と自ら課題を見つけ能動的に学び続ける力が求められます。そのような力を学生が育み向上させることができるよう試行錯誤しながら取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



小児外科 特任准教授
奈良 啓悟

令和3(2021)年4月1日付で小児外科特任准教授を拝命いたしましたのでご挨拶申し上げます。

小児外科は、あまり馴染みのない科ですが、小児に対して手術をする科であり、こどもの先天的・後天的疾患の診断と手術を中心として治療を行っております。当科では、基本的に全身を対象としており、頭頸部から肺や肝臓、消化管(食道から大腸全域)など多くの臓器を扱っております。現在、小児外科は私を含め常勤医師2名・非常勤医師1名による非常に小さい科ではありますが、小児科、麻酔科など多くの科に支え

られほすすべての小児外科疾患に対して手術ができる体制を整えております。

当科では、子供たちが将来にわたり傷痕をできるだけ気にしないでいられるよう、手術の傷をきれいに、また小さくすることを心がけております。そのため、積極的に内視鏡手術やおへそで傷痕が分からなくなるようにおへそだけで手術を行っております。

今後も小児医療の進歩・発展に貢献できるよう、地域や他科と連携して参ります。これまでと同様に、皆様からの温かなご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

NEWS

高校生より入院中の患者さんへ演奏動画が届きました



令和3(2021)年6月7日、静岡県立浜松北高等学校軽音部有志の皆さんから、コロナ禍に入院中の子どもたちや患者さんを笑顔にしたい、病棟で楽しんでもらえるようにと演奏動画が届きました。

有志を代表し来院した学生さんからは、「コロナ禍の中、患者さんを直接訪問することは難しいので、メンバーと話し合い、動画をお送りすることにしました」と療養中の子どもたちを応援する思いが語られました。松山幸弘病院長からは、入院中の患者さんへの心遣いに感謝するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、皆さんも学校や家庭では手指消毒を行い、食事などの会話などにも注意して過ごしてほしいとの言葉がありました。浜松北高等学校軽音部有志の皆さん、誠にありがとうございました。

主催学会 シンポジウム

令和3(2021)年1月1日~7月31日

symposium

第26回日本ヘリコバクター学会学術集会

臨床研究センター 病院教授 古田 隆久



会長挨拶

第26回日本ヘリコバクター学会学術集会を令和3(2021)年1月8日から10日の日程で、アクトシティコングレスセンターおよびサラーシティ浜松で開催しました。当初、令和2(2020)年の6月26日から28日で行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により延期となり、開催形式も現地参加とWEB参加を併用したハイブリッド形式となりました。

本学会は、胃がんや消化性潰瘍の原因であるヘリコバクター・ピロリ菌に関して、幅広く議論する学会です。学会のテーマは「今、ヘリコバクター研究にもとめられるもの - 基礎・臨床から施策まで -」としました。有料参加者は現地参加とWEB参加を併せて1400名であり、そのうち現地参加は200名程度でしたが、オンライン技術の進歩もあり、幅広い内容で活発な議論が交わされました。海外からの

招待講演もオンラインで無事行う事ができました。また、胃がん学会との合同セッションでは今野学長に特別発言をいただきました。会長講演では恩師の金子榮藏先生の御司会の下、浜松医科大学でのピロリ菌関連の研究について報告させていただきました。

コロナ禍での開催となりましたが、問診や検温、手指消毒などの感染対策を徹底することで、幸いなことに学会に関連した感染の報告はありませんでした。いろいろと困難もありましたが、無事に学術集会を終えることができ、浜松医科大学消化器内科グループの先生方をはじめ、御支援いただきました全ての方々にご場を借りて厚く御礼申し上げます。



会長講演終了後に金子榮藏先生を囲んで

第25回一般社団法人日本看護研究学会 東海地方会学術集会を開催して

臨床看護学講座(成人看護学) 准教授 影山 葉子

令和3(2021)年3月13日に、本学臨床看護学講座成人看護学領域の佐藤直美教授を学術集会会長として、オンラインにて開催いたしました。オンラインという強みを活かし、親学会でもある日本看護研究学会のメーリングリストで全国の学会員にも広報をいただき、100名を超える参加登録がありました。

本地方学会学術集会にとっては初めてのオンライン開催でしたが、「チーム浜松医大」の力が発揮できた学術集会でした。企画・運営は佐藤学術集会会長をはじめとした成人看護学領域の5名の教員が担い、附属病院の佐々木看護部長には講師として、看護学科の片山教授、渡井教授、脇坂教授には各講演の座長としてご協力いただきました。当日は本学を配信拠点に、馴染みのある顔が馴染みのある場所に集合できた環境で、とても心強く、安心して開催することができました。

「コロナ禍である今だからこそ、私たちが日々実践している看護を見つ

め直したい!」という学術集会長の熱い想いから、「実践をとらえなおす」をメインテーマに、教育・研究・実践の現場でご活躍の講師をお招きいたしました。「事例研究」「研究成果の実践への活用」「リフレクション」をキーワードに、参加者の皆さまとともに、これまで



会長講演

の実践を振り返る良い機会になったのではないかと考えています。また、静岡県健康福祉部から講師として保健師をお招きし、県のCOVID-19対応の大変貴重な経験もうかがうことができました。

多くの皆さまのお力添えにより、盛会のうちに終了できましたことをご報告いたしますとともに、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

第9回日本腎栄養代謝研究会学術集会

栄養部 副部長 渡邊 潤

令和3(2021)年7月4日に、血液浄化療法部長兼栄養部部長の加藤明彦病院教授を大会長としてWEBにより開催いたしました。学術集会のWEBによる開催は初めてであったため、参加者数や当日の運営に多少の不安はありましたが、例年どおりの参加者を集め、予定したプログラムを滞りなく終えることができました。

本研究会の会員は、CKD栄養療法に取り組む医師と管理栄養士が大半を占めるため、今回の学術集会テーマは「CKD栄養療法をめぐる



大会会場



大会長あいさつ

新たな潮流」としました。大会長講演では、超高齢化社会に対応するために、CKDステージに応じた標準的な食事指導をするだけでなく、患者個々の病態に応じたprecision medicine(個別化医療)による指導が求められていることなど、テーマの意図について解説がありました。続く特別講演では、日本腎臓学会理事長の柏原直樹先生をお招きして、CKD治療の未来像、展望についてご講演をいただきました。

また、一般演題では登録のあった27演題の中から、本研究会の顕彰制度に定められた「川上賞」候補の5演題がライブ配信され、WEB上での活発なディスカッションも行われました。ライブ配信されなかった演題は、教育講演5演題と共にライブ配信の10日前からオンデマンド配信を行い、こちらの一般演題に対してもチャット機能によるディスカッションが行われました。初めてのWEB開催でしたが、今後の研究会の運営にも参考となる大会となりました。

講座・研究室

紹介

Department・laboratory introduction



PRIZE WINNERS 学会賞等受賞

令和3(2021)年1月1日～7月31日

腫瘍病理学講座



どんな研究をしていますか？他の講座にはない特徴を教えてください

腫瘍病理学講座は、本学の基礎講座にははじめて毎年のように大学院生がはいてくれます。先輩たちは、秋田大学教授(田中正光、以下敬称略)、金沢医科大学教授(清川悦子)をはじめ、指導者として活躍しておられる方もたくさんいます。病理診断実務についての実力もつけてもらっていて、日赤愛知医療センター第二病院、浜松医療センター、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、磐田市立病院、県立総合病院、藤枝市立病院の病理診断科長として、それぞれ複数の病理医を擁して実務ばかりでなく、後進の指導や臨床研究・translational researchを進めています。海外出身の大学院生・学生、中短期滞在外国人研究者を受け入れており、中国、ルワンダ、ウズベキスタン、スロバキア、インド、ルーマニア、ポーランド、クロアチア、スペイン、イタリア、マルタ、米国の方などが滞在して



いたり、あるいは滞在していました。外部の研究者としては聖隷三方原病院のAyse Ayhan 博士(トルコ)、常葉大学の太田力教授、中村悟己博士(本学血液内科)、鈴木雅也博士(本学大学院卒)などがその専門領域で教室に寄与しています。研究テーマはヒト発がん、がんの原因と発症機構をとくに消化器や呼吸器のがんについて追求しています。呼吸器や消化器を専門とする臨床科から、また最近では泌尿器科などからも若いphysician scientistsが参加しており、translational な視点で優れた論文を書いて卒業していきます。臨床と基礎のネットワーク、国内外の研究チームのつくる有力なネットワークのハブでありたいという基本方針で運営しています。



外科学第一講座

どんな研究をしていますか？

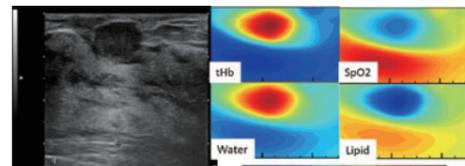
外科学第一講座は「心臓血管外科学」「呼吸器外科学」「一般外科学」「乳腺外科学」のそれぞれの分野で“academic surgeon”を目指し研究を行っています。心臓血管外科学分野では、大動脈瘤手術の脊髄虚血に関する研究に取り組み、現在は開発した新規脊髄虚血モニタリング機器の臨床試験を準備中です。また4D-MRIによる大動脈瘤内の血流解析で発症や悪化の機序解明に関する研究を行っています。呼吸器外科学分野では、肺癌のスクリーニングや予後因子に関する研究を行っており、尿中蛍光代謝物質のO-aminohippuric acidが肺癌を検出する有用なバイオマーカーであることや、Sphingomyelin(d35:1)が肺腺癌の新たな予後因子になることを報告しています。一般外科学分野では腹腔鏡手術の先駆者として、さらなる低侵襲化や安全な気腹法・鼠径ヘルニアの手術法の開発を行っています。乳腺外科学分野では近赤外線光を用いた時間分解計測法による新規乳癌診断機器の開発やJCOGなどの複数の臨床試験グループを通じて多施設共同の臨床研究を行い乳癌治療の向上に努めています。

他の講座にはない特徴を教えてください

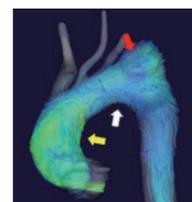
当講座ではそれぞれの領域が地域の中核施設として多くの症例を経験しており、より臨床に近い研究を行っています。4つの異なる分野が共に研究を行うことは、さまざまな視点からの考えを合わせることで相乗効果を生み出し、より高い成果を上げています。



集合写真

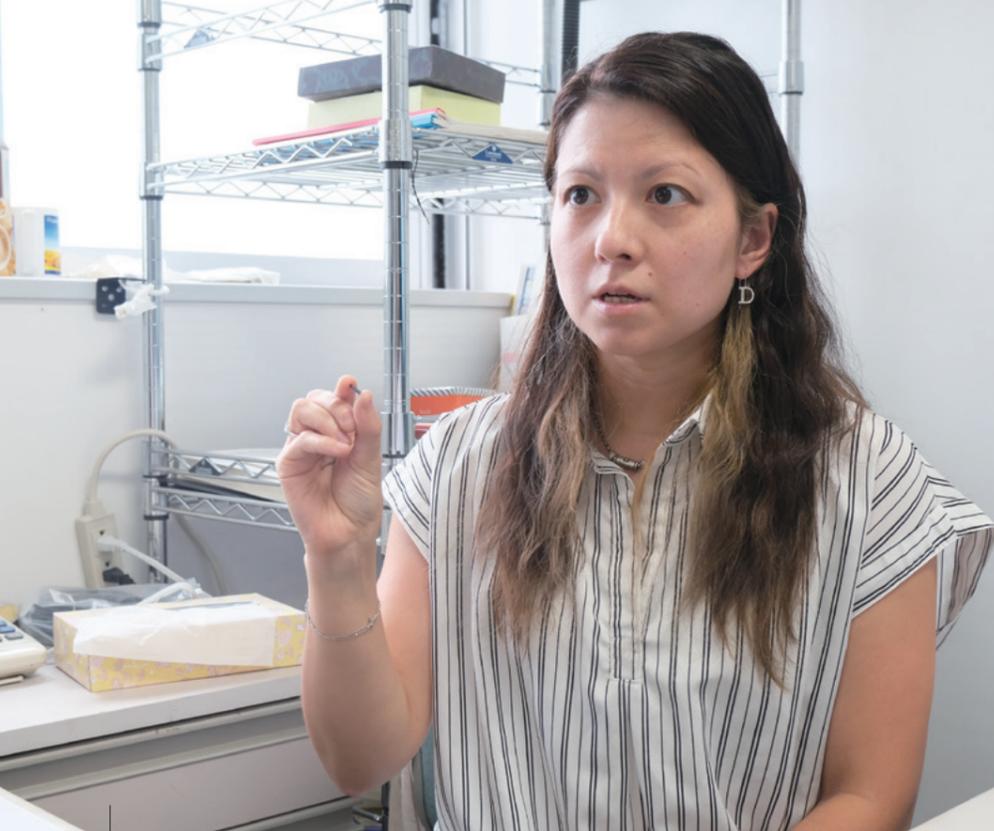


近赤外線光を用いた時間分解計測法による乳癌の画像解析



4D-MRIによる大動脈瘤内の血流解析

賞の名称	受賞年月日	受賞者	受賞内容(研究題目)
第121回日本外科学会 定期学術集会 特別演題賞	令和3年 4月9日	外科学第二講座 特定教授 海野 直樹	大動脈瘤薬物治療法の開発—Phosphodiesterase 3 阻害薬 K-134 による大動脈瘤 増大破裂抑制 についての実験的研究—
第80回日本医学放射線学会総会 Cypos賞 Silver Medal	令和3年 4月18日	放射線診断科 助教 棚橋 裕吉	マイクロニッピグにおけるリンパ管造影下CTの有用性に関する検討:リンパ管造影下MRIとの比較
日本内分泌学会 第41回 研究奨励賞	令和3年 4月21日	医学教育推進センター 特任講師 大場 健司	甲状腺ホルモンによる臓器特異的な制御機構の探索:診断・治療への応用
日本産科婦人科学会 令和2年度優秀論文賞 周産期医学部門	令和3年 4月22日	産科婦人科 医員 小田 智昭	Consumptive Coagulopathy Involving Amniotic Fluid Embolism: The Importance of Earlier Assessments for Interventions in Critical Care
The 73rd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology JSOG Congress Encouragement Award	令和3年 4月23日	産科婦人科 医員 小田 智昭	Consumptive Coagulopathy involving Amniotic Fluid Embolism: Proposal of a New Index Hemoglobin/Fibrinogen Ratio for Earlier Identification and Intervention
American Thoracic Society Abstract Scholarship	令和3年 5月	内科学第二講座 助教 鈴木 勇三	Impaired Autophagy Exacerbates Eosinophilic Airway Inflammation in Murine Model of Obesity Asthma
第14回日本緩和医療薬学会 年会 優秀演題賞	令和3年 5月24日	薬剤部 薬剤師 柴田 海斗	頭頸部がん患者におけるセツキシマブの血中濃度に基づく皮膚障害の重症度予測とその症状緩和療法の選択
日本病院薬剤師会 第9回 江口記念がん優秀論文賞	令和3年 5月29日	薬剤部 薬剤師 柴田 海斗	Correlations between serum cetuximab and EGFR-related markers, and skin disorders in head and neck cancer patients
日本麻酔科学会 松木賞	令和3年 6月2日	麻酔科蘇生科 講師 牧野 洋	日本の麻酔科学史を国内外に広く紹介
第69回日本輸血・細胞治療学会 学術総会 大戸賞	令和3年 6月4日	輸血・細胞治療部 臨床検査技師 古牧 宏啓	A newly devised flow cytometric antibody binding assay helps evaluation of dithiothreitol treatment for the inactivation of CD38 on red blood cells
日本看護研究学会 2020年度奨励賞	令和3年 6月6日	地域看護学講座 准教授 山本 真実	子どもの見方を変えていくしなやかさ:療育教室に参加する母親と看護者との対話を通じた協働的な学び
2021年度日本医療薬学会 Postdoctoral Award	令和3年 6月7日	薬剤部 薬剤師 柴田 海斗	固相化トリプシンを用いたヒト血清中セツキシマブの絶対濃度測定のための簡易で迅速なLC-MS/MS法の開発
日本老年社会科学会 第63回大会 優秀演題賞	令和3年 6月12日	地域家庭医療学講座 特任教授 井上 真智子	高齢者施設における「多世代演劇ワークショップ」の効果と可能性 —混合型ケーススタディによる2施設の検討—
第32回日本老年学会総会 合同セッション賞	令和3年 6月13日	井上 真智子	
日本アンドロロジー学会 第40回 学術大会 学会賞基礎部門	令和3年 6月13日	生殖周産期医学講座 特任助教 宗 修平	NanoSuit法を用いたFE-SEMによる精子超微形態の特徴づけ
ESGAR 2021 Virtual Congress Cum Laude	令和3年 6月16日	放射線診断学講座 准教授 市川 新太郎	Emergency cases with high attenuation lesions in the gastrointestinal tract on unenhanced CT
日本老年看護学会 研究論文奨励賞	令和3年 7月	臨床研究センター 特任助教 牧野 公美子	施設内看取りを代理意思決定し看取る過程で家族が経験した精神的負担と代理意思決定に対する想い—介護老人福祉施設に入所する認知症高齢者の家族の場合—
第141回関東連合産科婦人科学会 総会・学術集会 若手優秀演題賞	令和3年 7月8日	周産母子センター 医員 金崎 晴菜	がん性腹膜炎を疑う診断的腹腔鏡手術により判明した腹膜原発高悪性度B細胞リンパ腫の1例
日本受精着床学会雑誌 第8回優秀論文賞(臨床)	令和3年 7月21日	生殖周産期医学講座 特任助教 宗 修平	Twitterデータを用いた不妊治療患者の感情分析



研究室を出ると・・・

子育て奮闘中

子供が生まれてからは、平日の「おうち時間」はさながらトライアスロンです。休日は子供と過ごす時間を最優先に、隙あらば休憩し、余力で最低限の家事をこなしています。

太古の生物に夢中

子供が恐竜にはまったことがきっかけで、最近我が家では古生物学・古人類学ブームです。



化石パズル組み立ての様子

座右の銘は

“Never give up, stick to it.”

むかし母がよくかけてくれた言葉です。普段から特に意識している訳ではないですが、苦しい場面で何かを投げ出さなくなった時に、ふと思い出され、もう少しだけ踏ん張ってみようという力になってくれています。

どのように実験動物で精神疾患を「診断」できるか？

精神医学講座 特任助教
ベナー 聖子

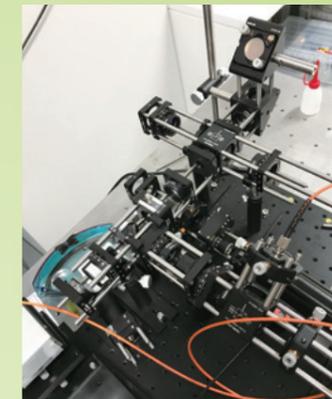
次世代 × 研究者

～未来を担う若手 研究者紹介～

生体組織や細胞を構造や硬さの側面から定量的に評価する

光先端医学教育研究センター
フォトリクス医学研究部
イノベーション光医学研究室 助教

田村 和輝



研究の初期では小さな装置を作り、試行錯誤を繰り返しながら改良をしました

私の研究

体の中の構造を観察するためにレントゲン・超音波・CT・MRIなどを使って臓器の状態を画像化することが日常的に行われています。さらに詳しく、細胞単位で観察するためには、細胞や生体組織の一部を取り出して光学顕微鏡を使って観察する手法が一般的です。一方で、生体組織や細胞の硬さの計測はあまり一般的ではありませんでしたが、病変の進行と硬さに関係があることがわかり、近年では臨床で使用される機会が多くなってきています。臨床で使用する硬さ計測が1cm程度の対象を観察するのに対して、私は病変進行と硬さの関係の根源的な物性を計測するために細胞一つを識別可能な10μm(1μmは1mm

の1000分の1)程度の大きさを識別できる機械物性顕微鏡を開発しています。

硬さを計測するためには、物体に力を加えた際の変形を計測する必要があります。例えば豆腐と金属を比べると、金属は豆腐より硬いため同じ力で押ししても豆腐ほど変形しません。同じ事を顕微鏡で組織観察をするように、マイクロメートルスケールで行うことは容易ではなく、いくつかの方法が研究されています。私は平成30(2018)年の浜松医科大学への着任を機に、本学の特色である光学技術で“物体に力を加える”と“変形を計測”の両方を行う計測方法の開発を開始しました。今はまだマイクロメートルスケールの硬さを計測できる段階ではありません

私の研究

およそ30人に1人が悩む「こころの病気」。この多くは根本的な治療薬がなく、新薬開発が難航しています。その理由のひとつは、精神疾患の症状を実験動物で再現(モデル)することが非常に難しいからであり、これが私の研究テーマです。

精神疾患は、血液検査等から得られる客観的・定量的な診断材料が無いため、医師による問診と観察に基づき診断されています。ことばを話せない動物の場合、なおのこと行動を頼りに「疾患らしさ」を判断せざるを得ません。より正確に判断するためには、ヒトの診断同様、できるだけ多くの情報(日常生活の様子や発育歴、症状の組み合わせ、など)を集める必要があります。しかし、従来のやり方は、動物

を単発的に実験装置に入れ、わずか数分間観察して結論を出すスタイルが主流で、この固定化・単純化された解析から得られる情報は限定的でした。

現代、様々なセンサや通信技術、自動化技術を駆使することで、膨大なデータを扱うことを前提とした行動解析が可能になってきています。私は、動物の行動を24時間365日、全自動で記録し続けられる技術を土台に、アニマルウェルフェアの向上や実験デザインの工夫によって、信頼性に優れる精神疾患モデル評価法へと発展させる試みを重ねています。例えば、豊かな行動レポーターを表現できる刺激に溢れた居住空間のなかで、ヒトが社会生活の中で直面する様々な

場面を模倣した状況を作り出すことによって、ヒトの精神疾患症状に直結する行動が抽出しやすくなります。このようにして実際に見出した複数の症状モデルについては、より確実な新薬パイプラインの充足に貢献できると期待しています。



ここまで自由度の高い飼育・実験環境は、国内で類を見ない

研究室を出ると・・・

特技はスノーボード

山形県の出身で高校生の時から続けています。



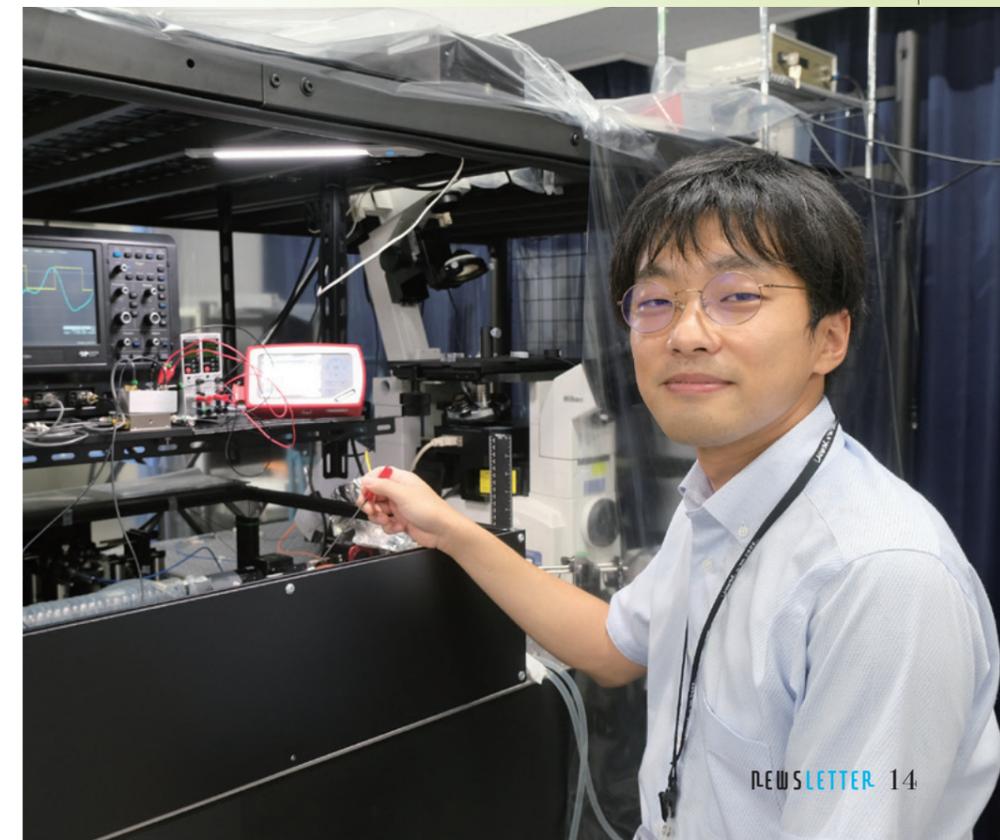
いい景色の場所でスノーボードするのはリフレッシュに最適です

休日はサーフィン!

浜松に引っ越し、サーフィンを始めました。まだまだ練習中です。

目標

私の目指しているところは、自分が開発する技術が広く研究や臨床の場で使ってもらえるようになることです。そのために、単純かつ高性能を目指して研究しています。



海のむこうで

Beyond the Sea



英国での研究教育生活

子どものこころの発達研究センター
教授・センター長
千住 淳



はじめまして。令和3(2021)年8月1日付で子どものこころの発達研究センター教授・センター長を拝命しました千住淳と申します。平成17(2005)年に博士(学術)の学位を取得後、15年以上にわたって英国のロンドン大学バークベックカレッジ、脳・認知発達研究センター(Centre for Brain and Cognitive Development, CBCD)で研究教育活動を続けておりました。このまま日本に帰る事なく研究を続けるものかと思っておりましたが、この度縁がありまして浜松にお呼びいただき、皆様と共に浜松医科大学の一員となることができました。何卒よろしくお願いたします。さて、今回は英国での研究や生活について執筆との事ですので、自己紹介がてら英国の状況をお伝えしたいと思います。

私が所属しておりましたCBCDは、乳幼児から学童、思春期、成人に至るまで、発達の各段階における脳機能・認知発達について、遺伝子レベルから社会文化環境レベルまで多角的に、発達認知神経科学の手法を用いた研究を行っておりました。私もセンターの一員として、自閉スペクトラム症など発達障害のお子さんの認知・脳機能発達に関する研究や、認知機能・脳機能の初期発達と養育者、文化的背景など社会環境との相互作用について研究を進めておりました。英国では世間一般の方々の科学研究への興味関心が極めて高く、乳幼児や自閉症児を対象とした研究にも研究参加者として多くの親御さん、子供さんが参加してくださっていました。センターとしてBBCなどのテレビやThe Times, Reuters, New York Timesなど国内外の新聞などから取材を受けたり特別

番組の企画に意見を求められたりすることも多々あり、良質な科学報道が科学と社会の架け橋になっていることを実感したりもしました。日本でも学術研究のアウトリーチが重視されるようになったと伺っておりますが、地域に根差した浜松医科大学の特徴を生かしてどのように研究結果を社会に発信・還元するかについて、皆様と一緒に工夫していければ幸いです。

一方、社会的経済的な格差や人種的・民族的少数者の社会参加は英国をはじめとした欧州全体で(北米でも)大きな問題となっております。私が主に研究する自閉スペクトラム症(自閉症)においても、文化的・言語的少数派の方々が診断や支援に辿り着くまでに苦勞されたり、文化的な偏見や慣習から医療や支援を受けることをためらってしまったりするといったことが、社会的にも大きな問題となっております。日本も徐々に国外からの短期・長期移住者は増えており、特に浜松は多民族の共存がなされている

地域であると同様に伺っておりますので、少数者の医療・社会支援に関する言葉や文化の問題については、英国のケースから学ぶこともあるのではないかと感じております。

また、英国は新型コロナウイルスによるパンデミックの影響を最も大きく受けた国の一つであり、私自身も令和2(2020)年の2月から英国出国までのほぼ1年半の間、完全自宅勤務によりリモートで研究・講義・校務・学生指導を行っておりました。医師である同僚は医療現場に駆り出されており、研究や他の大学業務はほぼ無期限延期、という先生方も多くおられました。また、特に第1波、第3波の時期には死者もかなりの数となりました。個人の体験としても、近所の公園に隣接する墓地で短い期間にお墓の列が増えていくのを目の当たりにし、恐ろしく感じたことを覚えております。

英国ではロックダウンは感染抑制に効果を示しましたが、社会経済的な影響に加えて

医療アクセスの問題(患者さんが外出を怖がって病院に来なくなる)やメンタルヘルスの問題に繋がることも多く、個人的にも心身の不調をどう管理するかがロックダウン中の大きな課題となりました。一方、パンデミックがもたらした正の側面と言えるのかはわかりませんが、メンタルヘルスに関する社会的な受容や理解が高まり、タブーやスティグマが薄れてきた流れを、英語圏ではここ1-2年でとても強く感じました。テニスの大坂なおみさんやアメリカの体操選手であるシモーネ・バイルズさんが自身のメンタルヘルスの不調に関して公にしたケースに関しても、こういった社会的な流れと相まって、英語圏ではとても好意的に捉えられています。精神医学の近傍で研究教育を行う身としては、ある意味ありがたい社会の変化であると感じております。

最後に少し話題を変えて、「英国の料理はまずい」という偏見について少しだけお話ししたいと思います。英国には美味しい料理や

レストランも数多くありますが、店による上下の振れ幅がとても大きい気がしておりました。また、英国のレストラン批評家は味よりも盛り付けの奇抜さや店の雰囲気、サービスの質や食材調達への倫理的配慮、ベジタリアンや宗教的忌避など食の多様性に対する配慮などに重きを置く傾向があるため、ガイドブックや新聞記事などを見ても旨い店かどうか判別が難しいところもあります。結局は自分の足で良い店を探すこととなりますが、経験的にはいわゆるexpat(国外居住者)が集まっている店は美味い傾向があります。例えば中華圏の方が集まっている点心の店や、トルコ語圏の方が集まっているトルコ料理の店など、とても美味しいところがロンドンにも多くありました。英国料理にしても、少し郊外で地元の方が集まっているパブの料理は質が高いところが多かったように記憶しております。移動規制が解け、海外旅行などが再開されたら、ぜひ英国にも足を伸ばしてみてください。多様な文化が感じられて楽しいところです。



▲ 浜松到着後、若き日の徳川家康公像前にて



▲ 脳・認知発達研究センター(CBCD)の外観

脳・認知発達研究センター(CBCD)における研究手法の例



▲ 脳機能計測(EEG、fNIRSなど)



▲ 生理指標(筋電位、皮膚電位、心拍など)



▲ 視線計測(アイトラッキング)



▲ 認知・行動認定

3月

3月3日(水) 大学改革に関する
外部有識者講演会

本学をメイン会場とし、静岡大学静岡・浜松キャンパスの各会場を繋ぐWEB形式により開催しました。第一部は浜松市医師会長の滝浪實先生による地方創生・地域活性化に関するご講演、第二部は渡邊理事の司会で、山本理事、滝浪先生による浜松地区の新大学についての意見交換を行いました。静岡大学の教員の方々からもご意見を頂戴するなど、両大学の連携を更に深める講演会となりました。



3月10日(水) 「古墳ひろば命名記念碑」除幕式



図書館前広場の名称が教職員・学生の投票の結果「古墳ひろば」と命名されたことを記念し、令和2年度第42期医学科卒業生115名の卒業記念品として記念碑が大学に寄贈されました。また、新型コロナウイルスの影響で中止となった卒業謝恩会の代わりとして、卒業生から記念品のハーバリウムが今野学長に贈呈されました。

3月12日(金) 入学者選抜試験

令和3年度浜松医科大学入学者選抜試験(後期日程)を実施しました。



3月16日(火)
令和2年度学位記授与式

今年度は医学科115名、看護学科68名、大学院医学系研究科博士課程34名、博士後期課程3名、修士課程17名及び論文博士6名の計243名に学位記を授与しました。平成30年4月に静岡大学と共同で開設した大学院博士後期課程(光医学共同専攻)の1期生が修了しました。後日、ご家族の皆様にも式典の様子を撮影したDVDを送付させていただきました。

3月17日(水) 永年勤続者表彰式

永年勤続者表彰式が行われ、永年にわたり医療並びに本学の教育に貢献された24名の方々に表彰状と記念品が授与されました。



3月24日(水)、26日(金)
CAR-T細胞療法合同勉強会



輸血・細胞治療部によるCAR-T細胞療法合同勉強会を開催し、将来の本院におけるCAR-T細胞療法の導入に向け、院内の医師、看護師など職員86名が参加し、質問や意見交換を行いました。



3月29日(月) 第2回静岡大学・浜松医科大学合同研究発表会

本学、静岡大学情報学部・工学部から15名の教職員が参加しました。今野学長の発案により、若手研究者が異分野の研究者と交流することを目的として令和2年9月から開催しています。両大学の更なる連携や共同研究の推進、新たな研究領域の創出などが期待されます。

令和3年度
4月

4月2日(金)
看護師特定行為
研修センター入講式



本学医学部附属病院は、特定行為研修指定研修機関として3年目を迎え、看護師特定行為研修センター入講式を行いました。本年度は、院内10名、院外3名の研修生が入講しました。



4月5日(月)
令和3年度入学式

医学科115名、医学科2年次編入学4名、看護学科60名、看護学科3年次編入学6名、大学院医学系研究科博士課程33名、博士後期課程1名、修士課程17名の計236名が入学しました。後日、ご家族の皆様にも式典の様子を撮影したDVDを送付させていただきました。

4月9日(金)～10日(土) 新入生オリエンテーション

外部講師によるマナー研修、グループワークのロールプレイ、BLS(心肺停止に対する一次救命処置)実習などを行いました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、学内の会場を16会場に分けてオンライン中継で実施しました。



4月20日(火) 中学生の大学見学

磐田市立竜洋中学校2年生17名が大学見学にきました。山本理事(教育・産学連携担当)・副学長の講義を受けた後、3グループに分かれて、附属図書館、講義実習棟、体育館、グラウンドなどを見学しました。



6月

6月4日(金) 「古墳ひろば」の命名者に記念品贈呈



「古墳ひろば」の命名者である外科学第一講座の船井和仁准教授へ今野学長から記念品として図書カードが贈呈されました。命名にあたっては、広場に古墳時代からの悠久の時の流れがあることを表したということです。

6月21日(月)
第2回動画・写真
コンテストの表彰式

動画・写真コンテストは、浜松医科大学オンデマンドへの投稿増加、新たな浜松医科大学の魅力発見を目的として開催しました。第2回となる今回は、研究や仕事の内容などを紹介する専門編、芸術性を求める芸術編を追加して募集を行い、動画15作品、写真19作品の応募の中から、動画部門で最優秀賞2作品・優秀賞3作品、写真部門で最優秀賞2作品・優秀賞2作品が選ばれました。



7月

7月2日(金)
浜松医科大学
産連・知財セミナー

「医学研究と知財」と題して、論文作成と特許出願の違い、特許出願する意義などを、医療知財分野の第一人者である北海道公立大学法人札幌医科大学医学部先端医療知財学 石壁 正徳教授にご講演いただきました。



7月9日(金) 学内研究プロジェクト優秀者表彰式

本学学内研究プロジェクト(大学院生支援事業)の令和2年度ポスター発表優秀者および令和3年度優秀者の表彰式を行いました。

受賞者: 令和2年度ポスター発表優秀者(5名)

- 最優秀賞 大石知也(脳神経外科学講座)
- 優秀賞 後藤大樹(内科学第一講座)
- 山田智史(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)
- Mst Ruksana Yesmin(神経生理学講座)
- 太田和義(内科学第二講座)

受賞者: 令和3年度優秀者(5名)

- 総合・看護 瀧澤知美(臨床看護学講座)
- 基礎 Nguyen Trong Dao(神経生理学講座)
- 石川勲(腫瘍病理学講座)
- 臨床 高羽理光(内科学第三講座)
- 鈴木美沙子(産婦人科学講座)

7月9日(金)
若手卓抜研究者
称号授与式

本学学内研究プロジェクト(若手研究支援事業)において特に優れた研究提案を行い、大型の競争的資金の採択が強く期待される申請者に対し「若手卓抜研究者」の称号を授与しました。



令和3年度若手卓抜研究者(2名)
金盛 琢也(臨床看護学講座 講師)
栗原 和生(皮膚科学講座 助教)

7月28日(水)～8月31日(火)
Webオープンキャンパス2021

今年度は昨年と同様に、オープンキャンパスをWebにて実施しました。Webオープンキャンパスの一環として、Webを利用した個別相談会(医学科・看護学科・大学院修士課程助産師養成コース)を実施し、授業や実習を担当している教員(看護学科・助産師養成コース)や入試課職員に直接相談・質問ができる機会を設けました。



9月

9月29日(水)
令和3年度
学位記授与式

大学院医学系研究科博士課程7名、論文博士3名に学位記を授与しました。

サークル活動の記録

令和2(2020)年度(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

準硬式野球部	●秋季県内2部リーグ 優勝
バドミントン部	●第57回静岡県大学バドミントン選手権大会 男子 1部リーグ3位、3部リーグ1位(2部昇格)、2位 女子 1部リーグ5位、2部トーナメント3位
サッカー部	●東海学生サッカーチャレンジリーグ(静岡県大会) 優勝 ●秋季東海医歯薬科学生大会 優勝
ヨット部	●第8回ミッドサマーオープンセールリーグレース 5位入賞 6位入賞 ●第74回浜松市民スポーツ祭ヨット競技 優勝 3位入賞 ●第19回HYA杯浜名湖セールリーグレース 2位入賞
弓道部	●静岡県弓道連盟主催段位審査にて式段、参段に昇段
陸上競技部	●第75回静岡県陸上競技選手権大会 女子棒高跳び 3位 男子5000mW 8位
水泳部	●第10回中部学生秋季室内水泳競技大会 出場

合気道部	●昇級審査にて級位取得 1級、3級、5級各1名、2級4名
四つ葉	●清明祭での学習ボランティア活動 ●juice classでの学習ボランティア活動
管弦楽団	●本学慰霊祭、学位記授与式における演奏
東洋医学研究会	●東百会へ参加、発表
つながり (ぬいぐるみ病院)	●三方原小学校放課後児童会での保健教育実施
つながり (SCORAはままつ)	●ゆずりは学園、西遠女子学園にてピアエデュケーション実施 (資料送付とZOOMによるオンライン授業)
HOPE	●オンラインによる留学報告会の実施
災害支援サークル Luce	●災害シミュレーション実施 ●地域住民向け新型コロナウイルス感染症対策講習会実施 ●避難所運営ゲーム実施

令和2年度は新型コロナウイルスの影響から、公式戦等が中止となり、思うように活動ができなかったサークルが以下の通り多数ありました。

男子硬式テニス部	女子バレーボール部	漕艇部女子	茶道部
女子硬式テニス部	ラグビー部	ゴルフ部	邦楽部
軟式テニス部	ハンドボール部	卓球部	軽音楽部
男子バスケットボール部	剣道部	スキー・スノーボード部	奇術部
女子バスケットボール部	空手道部	フットサル部	うなぎの会
男子バレーボール部	漕艇部男子	美術部	HMST

浜松医科大学オンデマンド

こちらから本学オンデマンドで公開中のサークル紹介の動画がご覧いただけます!



国際交流サークルHOPE

ゴルフ部

ヨット部

漕艇部
Rowing Team Hamamatsu Univ.

空手道部

硬式テニス部

バドミントン部

軟式テニス部 '21

卓球部

東洋医学研究会

茶道部

サッカー部

弓道部

ハンドボール部

ラグビー部

準硬式野球部

Baseball Club

設立
昭和49(1974)年

部員数
35名

活動日程
週3回
練習 火・木・
(試合がない週は)土
試合 土・日・祝日



医学部医学科4年
橋田 滉平

浜松医科大学準硬式野球部の活動について

こんにちは、準硬式野球部です。
私たちはプレイヤー23人、マネージャー12人の計35人で週3回、学内の野球場で活動しています。練習以外にも活発に活動していて、年に一回「マネージャー感謝祭」を企画する、バレーボールの学内大会に出場するなど、部員同士とても仲が良いです。
試合では経験者のみでなく、初心者も活躍しています。浜松医科大学野球部には監督やコーチがいないため、選手がその役割を担っています。自分たちで工夫して練習を行い、知識を共有することでチーム一丸となり日々成長しています。マネージャーの仕事もやりがいがあります。はじめはルールを知らなくても、先輩から教わることで、皆スコアを書けるようになります。

野球部は冬のオフ期間を長く設けています。そのため部員は学業との両立はもちろん、アルバイトや他部活との兼部などで、学生生活を充実させています。
大会は、8月に行われる西医体を目標に、県内リーグや東国体、医科リーグに東海選手権と、積極的に参加しています。大会は私たちにとって、他大学との交流の場でもあり、運営やスポーツマンシップを学び、成長する場でもあります。
以上、簡単ではありますが、準硬式野球部の活動について紹介させていただきました。のびのびと野球ができる環境に感謝しつつ、精力的に活動してまいります。

CLUB Introductions

サークル紹介

MedEnglish Club

設立
令和3(2021)年

部員数
15名

活動日程
週3回(月・木・金)
※曜日ごとに活動内容が異なります。



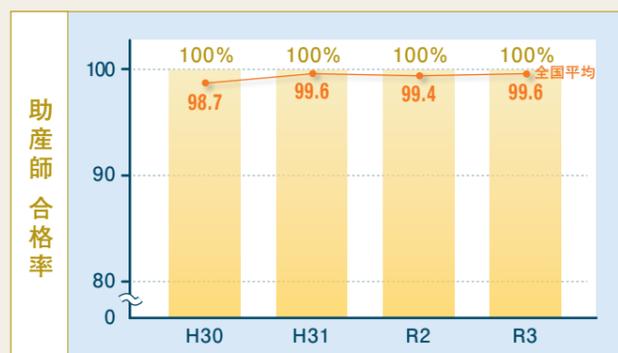
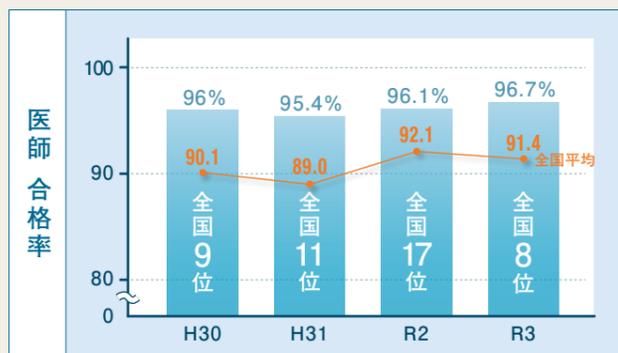
医学部医学科3年
加藤 優奈

世界で活躍できる医療人へ

MedEnglish Clubは、令和3(2021)年7月に新たに部活動として発足しました。私たちは将来グローバル社会の第一線で活躍できる医療人となるため、医学と英語の両立を目標に掲げ、日々の活動に精進しております。主な活動は、以下の2点です。
まず一つ目は、英語で医学に関するトピックをプレゼンテーションし、ディスカッションを行うことです。特に、海外の医療従事者の方や学生をお招きし、日本と海外の医療や医学教育の違いを議論することは、刺激的で心が高鳴るような貴重な機会です。英語での活動は、国際学会などのアカデミックなフィールドで情報発信する際の大きな礎になると感じています。
二つ目の活動は、USMLEの勉強会です。USMLEとは、「United States Medical Licensing Examination」の略で、いわゆる米国医師国家試験のことです。勉強会では、基礎医学

を中心としたStep1の試験対策として、問題集の解説や討論を行っています。一問一問和訳し丁寧に解釈しながら取り組むことで、より深く確かな知識の基を構築することができます。
グローバル化が進む現代、医学を英語で学ぶ意義はますます重要になりつつあると確信しています。特に、文献や医学論文を読むというインプットや、自身の研究を発表するというアウトプットの際に、英語は欠かせないツールとなります。英語という言語能力や医学知識の向上は、国際社会への道を開き、医師としての幅を広げてくれるはずで
私たちは国際社会の一員であることを常に心に刻み、世界で活躍できる医療人となるよう、日々の努力を怠ることなく尽力しています。

国家試験合格状況



■ 合格率(既卒を含む) ● 全国平均合格率(既卒を含む)

令和3年度 入学者選抜試験実施状況

入学者選抜試験実施状況								
学科名	区分[募集人員]	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程 [75]	331 (124)	300 (114)	264 (99)	76 (22)	5 (2)	0 (0)	71 (20)
	後期日程 [15]	357 (137)	200 (73)	45 (13)	18 (5)	6 (1)	6 (2)	18 (6)
	学校推薦型選抜 [25]	75 (32)		73 (30)	25 (8)	0 (0)	0 (0)	25 (8)
	帰国生 [若干名]	3 (0)		3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	私費外国人 [若干名]	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計 [115]	766 (293)		385 (142)	120 (35)	11 (3)	6 (2)	115 (34)
	2年次編入学 [5]	89 (34)	30 (6)	27 (5)	5 (1)	2 (1)	1 (0)	4 (0)
看護学科	前期日程 [40]	103 (98)		83 (78)	40 (39)	3 (3)	2 (2)	39 (38)
	学校推薦型選抜 [20]	55 (55)		54 (54)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
	帰国生 [若干名]	1 (1)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	社会人 [若干名]	1 (1)		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	合計 [60]	160 (155)		138 (133)	61 (60)	3 (3)	2 (2)	60 (59)
	3年次編入学 [10]	22 (20)		20 (18)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	6 (5)

()内数字は、内数で女子を示す。

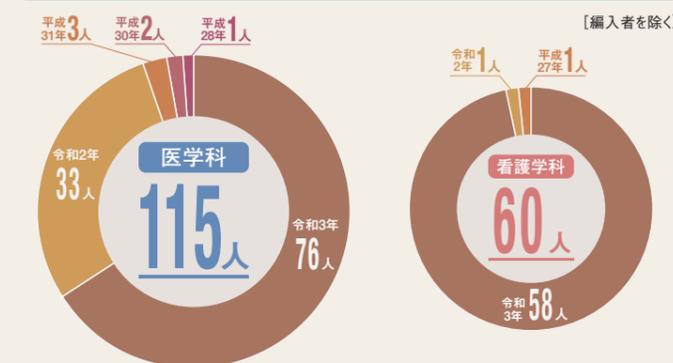
第115回医師国家試験大学別合格状況

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	115	115	100.0%
2	東京医科歯科大学医学部	103	102	99.0%
3	秋田大学医学部	131	128	97.7%
4	防衛医科大学校	80	78	97.5%
5	筑波大学医学専門学群	142	138	97.2%
6	名古屋市立大学医学部	105	102	97.1%
7	信州大学医学部	126	122	96.8%
8	浜松医科大学	120	116	96.7%
9	産業医科大学	88	85	96.6%
10	藤田医科大学	111	107	96.4%
11	東北大学医学部	131	126	96.2%
11	順天堂大学医学部	130	125	96.2%
13	岐阜大学医学部	100	96	96.0%
14	名古屋大学医学部	123	118	95.9%

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
14	北里大学医学部	121	116	95.9%
16	聖マリアンナ医科大学	120	115	95.8%
17	慶應義塾大学医学部	115	110	95.7%
18	富山大学医学部	112	107	95.5%
18	琉球大学医学部	133	127	95.5%
20	東京慈恵会医科大学	124	118	95.2%
21	東京医科大学	123	117	95.1%
22	北海道大学医学部	121	115	95.0%
23	横浜市立大学医学部	99	94	94.9%
24	千葉大学医学部	134	127	94.8%
25	佐賀大学医学部	114	108	94.7%
26	埼玉医科大学	129	122	94.6%
27	札幌医科大学	109	103	94.5%
27	日本医科大学	127	120	94.5%
29	宮崎大学医学部	124	117	94.4%
29	獨協医科大学	125	118	94.4%

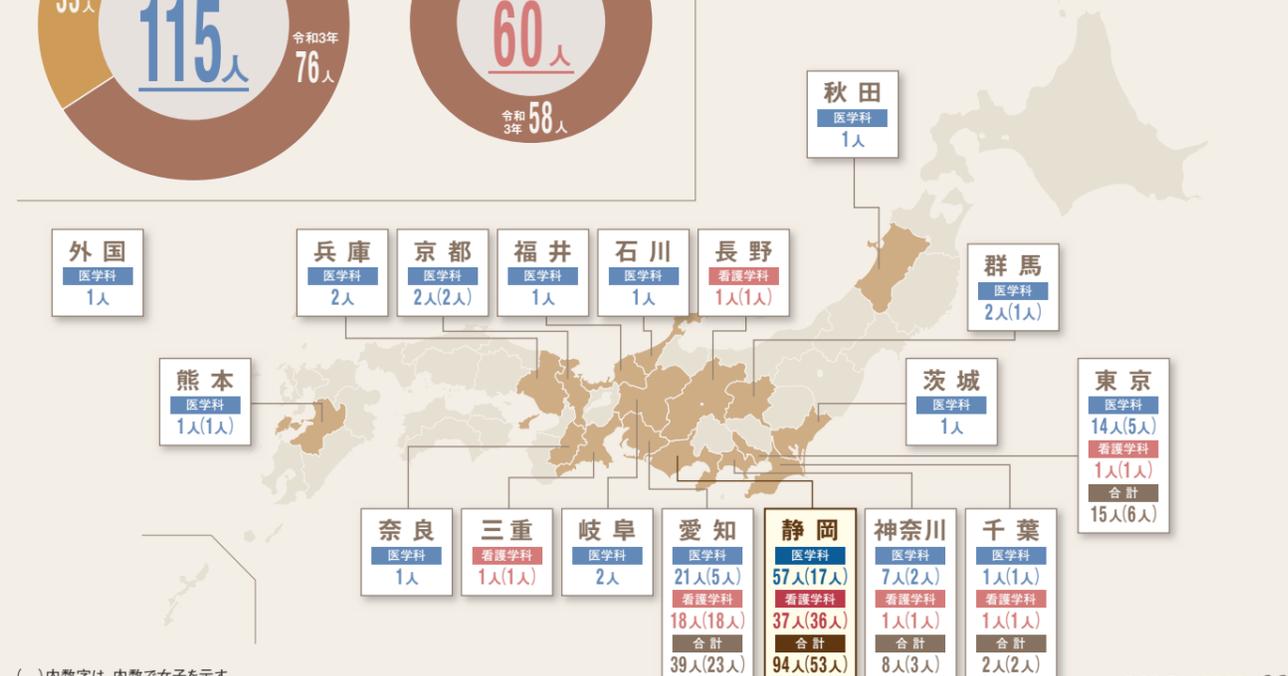
(既卒を含む)

高等学校等卒業年別入学者状況



出身高等学校等所在都道府県別入学者状況

医学科 115人(34人) 看護学科 60人(59人)
総計 175人(93人) (編入者を除く)



()内数字は、内数で女子を示す。

令和2年度 卒業生・修了生の進路状況

医学科 卒業生 115人

就職先等	内訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	7	7
	東京大学医学部附属病院	1	
国立大学病院	東京医科大学歯科大学医学部附属病院	1	
	岐阜大学医学部附属病院	1	5
	京都大学医学部附属病院	1	
	大阪大学医学部附属病院	1	
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	3	4
公立大学病院	横浜市立大学附属病院	1	
	自治医科大学附属病院	1	1
私立大学病院	JCHO東京新宿メディカルセンター	2	
	JCHO中京病院	2	6
国立病院等	東京医療センター	1	
	JCHO大阪病院	1	
	浜松医療センター	9	
	磐田市立総合病院	6	
	藤枝市立総合病院	5	
	静岡市立静岡病院	4	
	中東遠総合医療センター	4	
	焼津市立総合病院	3	
	豊橋市民病院	3	
	富士宮市立総合病院	2	
公立病院	公立福生病院	1	48
	平塚市民病院	1	
	横須賀市立市民病院	1	
	伊東市民病院	1	
	静岡県立総合病院	1	
	公立西知多総合病院	1	
	常滑市民病院	1	
	豊川市民病院	1	
	名古屋市立東部医療センター	1	
	半田市立半田病院	1	
	近江八幡市立総合医療センター	1	
	京都市立病院	1	
	静岡済生会総合病院	6	
	JA静岡厚生連 遠州病院	5	
その他病院	名古屋記念病院	3	
	横浜栄共済病院	2	
	聖隷三方原病院	2	
	名古屋第一赤十字病院	2	
	名古屋第二赤十字病院	2	
	倉敷中央病院	2	
	釧路孝仁会記念病院	1	
	関越病院	1	
	TMGあさか医療センター	1	
	東京都済生会中央病院	1	
	立川相互病院	1	40
	三井記念病院	1	
	大森赤十字病院	1	
	板橋中央総合病院	1	
	横浜南共済病院	1	
	横須賀共済病院	1	
	済生会横浜市南部病院	1	
	諏訪赤十字病院	1	
	聖隷浜松病院	1	
静岡赤十字病院	1		
名鉄病院	1		
京都桂病院	1		
国家試験不合格		4	4

合計 115

看護学科 卒業生 68人

就職先等	内訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	35	35
	国立大学病院	1	1
私立大学病院	東邦大学医療センター大森病院	1	2
	順天堂医院	1	
公立病院	中津川市民病院	1	
	静岡県立こども病院	2	
	静岡県立総合病院	1	6
	浜松労災病院	1	
	名古屋市立西部医療センター	1	
	名古屋セントラル病院	1	
その他病院	沼津中央病院	1	
	板橋中央総合病院	1	
	湘南鎌倉総合病院	1	
	名古屋第一赤十字病院	1	11
	名古屋第二赤十字病院	1	
	京都第一赤十字病院	1	
	東京都済生会中央病院	1	
	刈谷豊田総合病院	1	
	聖隷三方原病院	2	
	豊川市役所	1	
	掛川市役所	1	4
豊橋市役所	1		
企業等	日野市役所	1	
	中部電力株式会社	1	
進学	株式会社GSコアサエナジー	1	3
	プライムアースEVエナジー株式会社	1	
未定	浜松医科大学大学院助産師養成コース	3	4
	聖隷クリストファー大学 助産学専攻科	1	
未定		2	2

合計 68

大学院修士課程助産師養成コース 修了者 5人

就職先等	内訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	2	2
	浜松医療センター	1	
公立病院	東京女子医科大学病院東医療センター	1	3
	一宮西病院	1	

合計 5



令和2年度 学位記授与式



International Student Introduction

留学生の紹介

浜松医科大学にて、てんかんにおけるアストロサイト(星状膠細胞)の機能について研究しています

大学院医学系研究科(博士課程)2年
神経生理学講座

Nguyen Trong Dao
(グエン トロン ダオ)

出身国



ベトナム

How is your country like? What did you do before coming to Japan?

I come from Vietnam which is located in South East Asia. This is the approximate 100-million population country with an old-age special culture, delicious tropical fruits, and delightfully friendly people. I am a doctor working in a hospital with more than one thousand inpatient beds contained. Most of the beds are filled all the time due to high treatment demand. At my department, I faced so many patients with seriously resistant temporal lobe epilepsy. These suffer persistent symptoms even though taking many certain medications. This is the reason I take my effort to investigate the potential treatment method for these patients.

出身国はどんな様子ですか? 日本に来る前は何をしていましたか?

私は、東南アジアに位置するベトナムから来ました。人口約1億人のこの国には、古い時代の独特の文化があり、おいしいトロピカルフルーツがあり、とてもフレンドリーな人々が住んでいます。私は、病床数が1000床以上ある病院で働く医師でした。治療の需要が高いため、ほとんどのベッドが常に満床状態です。私の診療科では、重篤な難治性の側頭葉てんかんの患者さんが多くいました。これらの患者さんは、多くの薬を服用しても症状が持続するのです。このような患者さんに対する新たな治療法を探るために私は尽力しています。

What is the purpose of your research?

My research focuses on the possible role of astrocyte on preventing temporal lobe epilepsy initiation. Astrocyte is one of four glial cell types which for many years were regarded as "glue" that bound neuronal elements together and were considered a mere structure support role in the brain. However, astrocyte has been recently shown the pivotal role in brain homeostasis, including synaptic transmission and ionic homeostasis. My research will give an opportunity to shed light on astrocyte involvement in the pathophysiology of epilepsy and consequently find out the best way to prevent epilepsy onset. In the first two-year of the doctoral course, I have been getting used to advance scientific works. That includes the way how to recognize research-related questions and the way how to resolve research-associated problems.

あなたの研究の目的は何ですか?

私の研究は、側頭葉てんかんの発症予防におけるアストロサイト(星状膠細胞)の果たし得る役割についてです。アストロサイトは、4種類のグリア細胞のうちの1つで、長年の間、ニューロン(神経細胞)を結合する「糊」のようなもので、単に脳の構造維持の役割をされていると考えられていました。しかし、近年、アストロサイトは、シナプス伝達やイオン恒常性など、脳のホメオスタシスに極めて重要な役割を果たしていることがわかってきました。私の研究は、てんかんの病態生理におけるアストロサイトの関与に焦点を当てており、それにより、てんかんの発症を予防する最善の方法を見つける機会となるでしょう。博士課程入学後のこの2年間で、研究に関連した疑問をどう捉えるかや、研究に関する問題を解決する方法を含め、最先端の科学技術を使った研究に慣れてきました。



▲令和3年度学内研究プロジェクト(大学院生支援事業)の研究提案に対し、表彰されました。



Why did you choose HUSM?

Japan is a wonderful country with the fastest train named Shinkansen, on-time buses, and modern facilities. Hamamatsu University School of Medicine has high-tech equipment which can help us succeed in doing research required techniques. In addition, the university has professional teachers who are willing to help us resolve any challenges in doing research. At the Department of Neurophysiology, we have the latest technology and materials to conduct above mentioned experiments. I believe we can find out new findings in this project and then ameliorate the suffering of patients with epilepsy.

なぜ浜松医科大学を選んだのですか?

日本は、新幹線という最速の列車、定時運行のバス、そして近代的な設備のある素晴らしい国です。浜松医科大学には、テクニックを必要とする研究を成功させるために役立つ先端機器があります。また、研究上の課題を解決するために相談に乗ってくださる素晴らしい先生方もいます。神経生理学講座には、先ほど述べた私の研究に必要な実験を行うための、最新の技術と実験材料がそろっています。この研究プロジェクトで新たな発見をして、てんかん患者さんの苦痛が改善されるものと信じています。



▲厚生労働省の最上階にある中華料理店にて、景色がとてきれいです。



▲東京駅から東京メトロ丸の内線で2駅行った霞ヶ関駅に厚生労働省はあります。



卒業生は今

「卒業生は今」の執筆者募集中!



↑こちらからご連絡ください!

ザザシティ浜松5階の子育て支援課入口にて▶



人事交流にて厚生労働省に勤務して

私は平成15(2003)年に浜松医科大学を卒業し、同大第二内科に入局しました。その後呼吸器内科学を中心に臨床医としての研鑽を積みつつ、医生理学教室鈴木先生(現教授)、浦野教授の下凝固線溶系の研究で学位を取得させていただきました。米国留学を経て、帰国後は磐田市立総合病院、浜松医科大学内科学第二講座、救急部のスタッフとして勤務させていただきました。令和2(2020)年1月新型コロナウイルスの流行が始まり、新型コロナの話題で持ちきりのちょうどその頃、浜松医科大学からの人事交流という形で厚生労働省に赴任することが決まりました。着任までには流行のピークは過ぎるのではと淡い期待を抱いておりましたが、その後も新型コロナの勢いは衰えることなく、国内での感染者数も増加の一途を辿る同年4月厚生労働省に赴任しました。



▲厚生労働省の隣に日比谷公園があり、時々気分転換に訪れます。

厚生労働省はご存じの通り新型コロナウイルス感染症対策の中心的な役割を担っております。着任後すぐに治療薬を中心に新型コロナウイルス対策の業務に携わらせていただきました。省内の方々と協力しながら、臨床現場や世の中から求められるニーズや日々更新される情報を整理し、医療現場にうまく反映できるような施策を日々検討してきました。医療現場、保健所の方々が苦勞されていると聞き、少しでも世の中や現場の皆様役に立てるように皆様への指導を真摯に受け止め自分なりに努力してきました。浜松医科大学からは初代の人事交流、新型コロナ流行下ということもあり大変なことも多々ありましたが、新型コロナに関する業務を通じて、通常なかなか経験できない大臣説明や国会陪席等の貴重な経験もたくさんさせていただきました。

同年秋からは、N95マスク、使い捨て非滅菌手袋等の個人防護具(PPE)に関する業務にも携わらせていただいております。医療現場の皆様がPPE不足による(自身の)感染リスクへの不安、診療への影響を最小限にできるよう適切な施策を提案していきたいと考えております。また、今年の4月からは、健康局難病対策課に所属しており、上記のような業務と並行して、指定難病、小児慢性特定疾病に関する業務も行っております。難病対策課では研究班の先生方のお力やお知恵を借りることが多く、



▲国会議事堂と議員会館を訪問するときはいまだに緊張します。

浜松医科大学の先生方、卒業生にも日々お世話になっており、この場を借りてお礼申し上げます。

厚生労働省での経験を通じて、皆様のような臨床の現場で活躍されている医師、看護師、大学等の研究機関の研究者、保健所や都道府県、厚生労働省といった行政機関がうまく連動し、初めて適切な施策が実現できると感じました。令和

3(2021)年7月現在、新型コロナの流行が続いており、皆様日々忙しく気が休まらない毎日が続いているかと思われませんが、くれぐれもお身体にはご留意ください。医療現場の雰囲気を知る者として皆様の意見をしっかりと汲み取り、適切な施策が提案できるように引き続き努力していきたいと思っております。

最後になりますが、厚生労働省への赴任に際しご尽力いただきました渡邉理事、ご協力いただきました須田教授をはじめとした内科学第二講座、呼吸器内科の皆様方にはこの場を借りて感謝申し上げます。また、赴任当初は、単身赴任の身でありながら浜松には戻れない状況が続きました。その状況を理解いただいた家族にも大変感謝しております。厚生労働省に勤務させていただいた貴重な経験を、今後浜松医科大学や静岡県に還元することが私の重要な使命と考えております。引き続きご指導よろしくお願いいたします。

医学科24期生
(平成15年3月卒業)
安井 秀樹



健康で笑顔あふれる社会のために

看護学科3期生
(平成13年3月卒業)
青山 祐子

皆様こんにちは。私は文章を書くことが苦手なのですが、卒業後、様々なことを経験させていただき、たくさんの方々に支えていただいたことに心より感謝しています。皆様にお礼の気持ちも込めてペンをとりたいと思います。

私は浜松医科大学を卒業後、総合病院の循環器内科・心臓血管外科科棟にて、看護師として3年間勤務いたしました。初めての社会人経験、ミスの許されない現場は緊張感にあふれていました。患者さんの急変も多く、大変な3年間でしたが、医療スタッフや患者さんと様々なお話をさせていただき、CCUに入院されていた患者さんが笑顔で退院される姿を見て、医療現場で働くことができよかったな、健康で自分らしい生活を送れることは素晴らしいことなんだと、実感しました。

その後、浜松医科大学の修士課程に進学し、石津教授のもとで看護倫理を学びました。研究では、臨床看護師の倫理的感受性と倫理的対処行動の関連について、

1000名近くの臨床看護師の皆様にご協力いただきました。ゼミには様々な経歴の方々がいらっやして何話を話しても刺激になり、時間を忘れて議論していた日々を懐かし思い出します。

臨床経験と修士課程を終え、私はやはり「その人らしく、楽しく健康的な生活を送る」ことについて予防的視点を持った仕事をしたいと考え、保健師として平成18(2006)年に浜松市役所に入庁いたしました。入庁後は主に子育て支援、母子保健、児童虐待防止の分野を担当させていただき、その中でも平成31(2019)年4月からの2年間、厚生労働省職員として勤務させていただいたことは、非常に有意義な経験でした。

厚生労働省では子ども家庭局家庭福祉課虐待防止対策推進室にて、児童虐待防止に関する専門委員会の開催、報告書の作成、現地ヒアリング等を担当させていただきました。令和元(2019)年には児童福祉法改正についての法案審議があり、徹夜での国会対応を何度も経験いたしました。

政策立案に関して正確性はもちろんのこと、地方公共団体の状況が様々であることから視察・検討会を多く開催し、常に現場の意見を取り入れる姿勢は大変勉強になりました。重篤な児童虐待事案を二度と起こさないために、そして切れ目のない子育て支援が全国で展開できるように「何が必要で、どうしたらいいのか」を日々議論し、スピード感を持って対応する



▲よりよい子育て支援策を目指して課内で議論しています。

ことの必要性を強く感じた2年間でもありました。また、産婦人科・小児科・児童精神科の医師をはじめ、大学教授、弁護士等、児童虐待分野を専門とする委員の皆様とお話できたことも大変貴重な経験でした。

新型コロナウイルス感染症についても看護系技官としての対応が求められ、泊まり込みでの現場対応、サーベイランス業務、クラスター対応等を経験させていただきました。国民の生命と生活にかかわる感染症対応を国レベルで経験できたことで、いかに現場に即した迅速・的確かつ柔軟な対応が必要か、そのために状況変化を素早く察知し、どのように予測・予防していくか…考えさせられることが多い日々でした。この経験は地方公共団体でも生かさなくてはいけないと感じております。

今年の春から浜松市子ども家庭部子育て支援課に所属しております。地方公共団体では、国の政策・制度をいかに地方の特色に沿った形で展開するかが重要です。現場に即したよりよい子育て支援策を生み出すことで、子どもも大人も、そして地域全体が毎日笑顔で過ごせるように、市役所職員として日々精進したいと感じております。



▲R2厚生労働省オレンジリボンキャンペーンにてスカイツリーをライトアップしました。



▲日比谷公園。右上の建物が厚生労働省です。

浜松医科大学基金へご協力いただき、 心よりお礼申し上げます。

教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行っています。浜松医科大学基金を基に、安心して医学・看護学の教育・研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を安定的に提供することで、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育ててまいります。

寄附者ご芳名

令和3年2月から8月までに115件のご寄附をいただきました。

お名前の公表をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。

なお、本学職員につきましては掲載を割愛させていただきました。

青山 悦久 様
新井 富生 様
粟田 成毅 様
池野 綾女 様
井田 雅章 様

一般社団法人
浜松市医師会 様
医療法人社団慧正会
みゆき内科クリニック 様
医療法人社団
小助川ファミリークリニック 様

医療法人社団千寿会
鈴木内科 様
岩瀬 信二 様
遠州信用金庫 様
大沢 正尚 様
大橋 弘幸 様
奥川 周 様

小澤 佳世 様
小野寺 隆平 様
金子 寛 様
鎌田 皇 様
加陽 直実 様

河合 智矢 様
川北 かおり 様
川久保 明利 様
河崎 孝弘 様
河田 光弘 様

川村 孝一郎 様
鬼頭 満 様
黒田 龍 様
小出 幸夫 様
小島 由光 様
小林 理恵子 様
櫻町 俊二 様

JA静岡厚生連
遠州病院 様
市立御前崎総合病院 様
杉浦 芳明 様
高橋 貞子 様

武井 陽一 様
津幡 佳伸 様
寺田 護 様
寺田 真理 様

特定非営利活動法人
国際倶楽部 様
戸田 準一 様
中村 陽史 様
中村 直也 様
名倉 康雄 様
西山 孝三 様
坂東 誠一 様

日高 真理子 様
伏見 航也 様
堀尾 嘉昭 様
本郷 輝明 様
みのる内科クリニック 様

宮嶋 裕明 様
望月 照之 様
谷島 康司 様
山下 富雄 様
大和谷 崇 様

山中 寿夫 様
山端 英仁 様
横手 隆一 様
米山 雅彦 様
渡邊 郁緒 様
渡邊 美月 様

ご寄附のお申し込みについて

電話、FAX、またはメールでお名前とご住所をお知らせください。ご寄附に必要な書類をお送りいたします。また、浜松医科大学基金ホームページより、クレジットカードでのご寄附も受け付けております。浜松医科大学基金ホームページでは、基金により実施した事業もご報告しています。

お問い合わせ先

浜松医科大学基金事務局 総務課広報室 広報・基金係
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1 TEL 053-435-2107 FAX 053-435-2112 E-mail kikin@hama-med.ac.jp

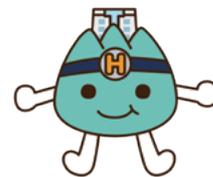


浜松医科大学基金ホームページ
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>

編集後記

コロナ禍鎮まらず落ち着いた毎日ですが如何お過ごしでしょうか。大学の新型コロナウイルス対策をトピックスで取り上げました。医科大学として教職員一丸となり取り組んでいます。ご覧ください。また本号は新教職員の紹介をはじめ新しい大学の風を感じる興味深い記事満載です。新たに若手研究者紹介もはじめました。ご多忙のところ執筆していただいた皆様に厚く御礼申し上げます。オンライン授業が中心となりキャンパスに学生の姿が少なく寂しいこの頃ですが、今後とも「新型コロナに負けない浜松医科大学」にご支援をお願いいたします。

ニュースレター編集委員 T.N.



浜松医科大学マスコットキャラクター

はんだやまっぴー

原稿募集

「研究最前線」「海のむこうで」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など各欄への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。

職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。誌面づくりに、ぜひご参加ください。

広報室 koho@hama-med.ac.jp

編集・発行 浜松医科大学ニュースレター編集委員会

発行日 令和3(2021)年10月1日

お問い合わせ 国立大学法人浜松医科大学 総務課広報室
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代表)



浜松医科大学オンデマンド

<http://od.hama-med.ac.jp>



浜松医科大学

<https://facebook.com/HamamatsuUniversitySchoolofMedicine>



浜松医科大学医学部附属病院

<https://facebook.com/HamamatsuUniversityHospital>

